

みなと総合研究財団の山縣でございます。共同主催者として、一言、ご挨拶申し上げます。

共同主催ということにつきましては、冒頭、佐藤理事長からご紹介がありましたとおりでございます。

まずは、河野先生、基調講演およびコーディネーターまでお務め頂き、本当にありがとうございます。

加えまして、講演を頂いた商船三井客船の川野様、横浜市の高橋様、パネリストとして登壇頂いた国土交通省の西尾課長、宮沢課長、観光庁の鈴木室長、本当に今日はありがとうございます。

本日のセミナーには、全国から、津々浦々の自治体の方、関係の業界の方など500名を超える方から参加申込みがあったとのことで、本当に関心が高いということを改めて認識したところです。

今日のテーマは、安全・安心なクルーズの実現ということで、いろいろな立場から、情報提供あるいは熱心な議論ができていないかと思えます。

ますますのクルーズの展開ができればと思います。

振り返りますと、3年前、ダイヤモンドクルーズのことがあり、港の景色が一変しました。とりわけ、クルーズについては壊滅的と言える状況でありましたが、その後、関係各位のいろいろなご尽力により、何とか国内クルーズも再開できま

したし、そして国際クルーズも再開ということで、一つの大きな光が見えてきた  
なと思います。来年以降、もっともっこの光が輝くのではないかと期待してお  
ります。

私どもみなと総合研究財団は35年前にできた港湾関係の調査研究機関です  
が、5年前にクルーズ総合研究所を設けております。今日、お話に出てきました  
日本国際クルーズ協議会（JICC）の事務局をさせて頂いております。

クルーズは、海運の世界と港湾の世界、観光の世界の3つの要素で成り立って  
いると思います。今日は、それぞれの分野を統括されている課長さん、室長さん  
に来て頂いておりますが、これからのポストコロナのクルーズを考えた時に、ぜ  
ひ、産業としてクルーズをどう盛り上げていくのかを、一つの政策として統一的  
に立ち上げて頂きたいという思いがございますし、日本の独自のクルーズ文化  
というものをぜひ育てて頂きたいと思います。

最後に、河野先生の基調講演の中で、Ship of Confidence、Port of Confidence  
という言葉がとても印象的でございます。

信頼されるクルーズというのが基本的なキーワードだと思いますが、そのた  
めの色々な関係者の努力があったことが今日の発表で理解できましたし、引  
き続き、そういう努力を知って頂きつつ、併せて一般の方にクルーズが安全であ  
ることを一緒に広めていこうということが、今日、共有できたのではないかと思

います。

アフターコロナ時代のクルーズが大いに発展することを祈念しまして、私のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。